

令和3年度 第2回桑名市子ども・子育て会議 会議概要（抜粋）

日時・場所	令和4年3月18日（金） 10:00～11:15 桑名市役所 5階中会議室
出席者	委員：13名 事務局：16名
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 議事 <ul style="list-style-type: none"> ・基本施策の進捗状況について（新規事業を含む。）（資料3～8） 3. その他（報告事項） <ul style="list-style-type: none"> （1）特定教育・保育施設の利用定員の設定について（資料9） （2）児童福祉法の一部改正について（資料10） 4. 閉会
概要 （主な意見）	<ol style="list-style-type: none"> 2. 議事 <ul style="list-style-type: none"> ・基本施策の進捗状況について（新規事業を含む。）（資料3～8） （事務局が資料で説明） <p>委員：外国人の子どもへの情報提供や教育に関する取組みを行っていることは分かったが、保護者に対する取組みも行ってもらえると助かる。外国人の保護者とやりとりを行う際、日本語を覚えた子どもに通訳してもらわないといけないケースが少なからずある。</p> <p>事務局：保護者への支援としては、翻訳や通訳のサポートなどを行っている。また、外国にルーツのある保護者や子どもが地域コミュニティの中で日本人と一緒に生活・活動していけるよう、多文化共生の担当部署と連携して取組みを進めている。</p> <p>委員：学童保育所でも外国人の子どもや保護者とコミュニケーションがとりづらいという現状があるが、支援してもらえるか。</p> <p>事務局：教育委員会事務局と連携しながら対応していきたいと考えている。</p> <p>委員長：子どもたちの居場所は学校だけではない。教育現場以外でもきめ細やかな配慮をしてもらえればと思う。</p> <p>委員：小中一貫教育に関して、桑名市では同じ小学校の子どもが別々の中学校に進学するケースがある。校区の見直しを進めなければ完全な小中一貫教育は実現できないのではないかと思うが、どのように進めているのか。</p> <p>事務局：小中一貫教育で重要なのは、教育を小学校と中学校で分けて考えることなく、9年間の義務教育という一連のものと捉えて実施することで、子どものより良い成長につなげていくことである。こうした目的は、進学先によって変わるものではなく、どの中学校でも目指すところは同じである。</p> <p>委員：兄弟姉妹で進学する中学校が別々になってしまうと、例えば各種警報が解除された場合の対応が子どもによって異なってきたり、運動会などの学校行事が重なってしまったりする弊害が出てくる。小中一貫教育を進めるのであれば、これを機に同じ小学校の子どもが同じ中学校に進学できるよう校区の見直しも進めてほしい。</p> <p>委員長：子どもたちの健やかな育ちを支える環境づくりに関して、文部科学省が子どもたちを性暴力の被害者・加害者にしないよう「生命（いのち）の安全教育」を推進している。桑名市でもしっかり取り組んでもらい、子どもたちにとって有意義な教育がなされるといい。</p>

3. その他（報告事項）

（１）特定教育・保育施設の利用定員の設定について（資料９）

（事務局が資料で報告）

委員：定員数が減ったということだが、待機児童はいないのか。

事務局：この４月の段階では生じていない。

（２）児童福祉法の一部改正について（資料１０）

（事務局が資料で報告）

委員：親子関係の形成に関連しての意見だが、基本施策にある高校生等の保育体験事業について、保育者の養成という方に重点が置かれているように感じる。保育士の確保は重要だが、もともとは乳幼児とのふれあい体験を推進する事業であるから、いのちを産みどう育んでいくかという親子関係の形成の視点は忘れないでほしい。

委員：ここまでの会議の内容を聞いた上での全体的な意見になるが、まず基本施策については、それぞれの取組みをそれぞれの担当部署が個別にやっているように感じた。例えば特別支援を充実させていきたいなら、就学前と就学後で分けるのではなく、子どもの成長を一連の流れとして捉えて必要となる支援を実施していただくことが望ましいと思う。こうした「流れ」や「つながり」を考えて取組みを行ってほしい。

次に、現在、子どもたちへの新型コロナウイルスの感染が広がっている状況があるが、こうした状況を踏まえた話が会議の中で一切出てきていないことが気になった。委員には教育関係者や医療関係者もいる中、そうした話し合いがなされないことに不安を感じた。

最後に、会議の運営方法について、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために会議時間を短く設定するのであれば、例えば会議資料を事前配布して各委員から意見を提出してもらい、それを踏まえて会議を開催するなど、会議を効率化する工夫を行ってほしい。運営方法を変えずに会議時間だけを短くすることは、委員の発言時間を削ることになるため良いやり方とは言えないと思う。

委員長：子どもの成長過程をぶつ切りにして考えてはいけない。課題が表出する前の段階から関わることは重要なことであり、子どもの成長の分野においても母子保健の分野と同様に「切れ目のない支援」が求められることを感じた。会議のあり方については、委員の意見を聞く時間をしっかりとることができるよう、事務局には運営方法を改善してもらいたい。

委員：コロナ禍において、保育者・養育者がマスクを着用したまま保育・養育を行うことで、乳幼児の表情が乏しくなっているという話を聞いたことがある。乳幼児期には、大人の表情を見せながら子どもと接することが重要だと思うが、桑名市では、例えば透明なシールドマスクを用いるなど、大人の表情を見せるような工夫を行っているか。

事務局：公立保育所では、特に乳児については離乳食が始まる時期に大人の口の動きを見せることが発達にとって重要であるため、フェイスシールドを用いて保育を行うようにしていた。しかし、オミクロン株の流行により新型コロナウイルスの感染が拡大してきたため、現在は不織布マスクを着用して保育を行っている。

委員：子どもが多く集まる場所でのフェイスシールドの使用が難しいのであれば、例えば乳児健診のときに、保護者に対して、子どもに表情を見せることが発達にとって重要であることを伝えてもらい、フェイスシールドの活用をアドバイスしてもらえると良いと思う。

委員：くわな子育てガイドブックの冊子が来年度から作成されなくなる。

委員長：ペーパーレス化が進む社会状況はあるが、必要な情報を必要な人に確実に届ける工夫は必要になってくると思う。